

子どもたちとの関わり → 学校教育を介した人材育成、文化芸術の継承・普及

- ・子どもたちが文化・芸術にふれる機会づくり
- ・島田への愛着、誇りを育てる教育（将来島田を担う人材の育成にも繋がる）
- ・学校教育へのコミュニティスクール（ディレクター）の導入
- ・若年層人口が流出傾向
- ・30～40代（子育て世代）をターゲットとした移住施策

効率的な情報発信 → 他分野との統合が必要

- ・シティープロモーション、しまだ市民遺産等を活用した地域資源の発信
- ・eじゃん島田（ブログ）、しまいく等を活用した情報発信

人材発掘・育成 → リーダーの育成

- ・市民活動センターの活用
- ・ファシリテーション研修等の現在行われている講座の拡充
- ・人と人とのつながりが重要（ソーシャル・キャピタル）

ソーシャル・キャピタルとは・・・ ※「ウィキペディア (Wikipedia)」抜粋

人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできるという考え方のもと、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の重要性を説く概念。基本的な定義としては、人々が持つ信頼関係や人間関係（社会的ネットワーク）のこと、と言って良い。上下関係の厳しい垂直的人間関係でなく、平等主義的な、水平的人間関係を意味することが多い。

参加のハードルを下げる仕掛け → 多様な世代の参加、参加のためのストーリーづくり

- ・世代間交流（高齢者と子どもなどの交流 ex.権三わらじづくり）
- ・子どもを中心としたイベントは参加しやすい
- ・子育て世代への支援 ex.ペアレントサポーター、託児サービス
- ・楽しいから、事業所にメリットがあるから等、参加への動機づけが必要

企業との関わり → 企業の多様な関わりの創出

- ・貢献が固定化していないか（金銭的な支援（祭りや花火への協賛）だけではないはず）
- ・行政が企画するだけでは実現しない。実際に運営できる市民や企業に具体的な関わりを示すことが必要

文化・芸術の豊富な素材 → 新しい切り口の提示

- ・大井川、SL、茶等は既にどこでも上げられているキーワード
- ・スポーツ、風景・景観、農業・林業、福祉等、異なる分野と文化芸術の組み合わせ
ex.自転車やウォーキングで回るスポットに文化的資源を盛り込む。
「マラソンの好記録」＝「土地が平ら」という強み（参加しやすい）を活かす。
- ・食べ物 ex.茶を中心とした食文化、小まんじゅう（お茶文化との関連）

その他

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックや2025年大阪万博→インバウンドを意識した計画づくり
- ・牧之原台地の開拓や女性参政権等、計画の背景にはストーリーが必要。